

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 保育者に必要な力～カンファレンス～／福岡市立雁の巣幼稚園（福岡県）

子どもたちの遊びの姿を記録し、園の職員で話し合うことはありますか？

各クラスの子どもの姿を、園の実情によって様々な工夫をして共有していることと思います。

今回は、子どもたちの姿をビデオや写真で記録し、園内で、日常的にその姿を共有し、主題「科学する心」を育てる保育の考え方の共有や子ども理解を深めることに繋げている園の実践をご紹介します。



### ● 保育カンファレンスを通して／5歳児

保育者自身に必要な力は、保育者一人だけで身に付いていくものではなく、保育者同士が園内で環境に関する意識を共有し、共通の視点をもって幼児の姿を捉えることから身に付いていく力であると考えている。そして、本園では、毎日の保育終了後、または週に1回の「週案打ち合わせ」に保育者同士が情報を交換できる「保育カンファレンス」の場を設けている。「保育カンファレンス」とは、保育者が自分なりの見方や考え方をお互い対等な立場で出し合い、そこで出された意見を自分の実践に照らし合わせていくことを目的としている。

### ✦ ビデオや写真をもとにした保育カンファレンス

多様な意見を交わし、日々の保育を振り返ることで、保育者は、新たな視点に気付いたり、保育経験の違いを乗り越えたりなど、保育者自身の見方や考え方を再構築することができる。また、いろいろな見方や考え方を出し合うことによって、子どもの姿の捉え方も変化し、保育者の保育の質の向上に繋がると思われる。一つの保育事例をいろいろな角度から考察し、お互いの意見を出し合う「保育カンファレンス」は、保育を実践する上で大変意義深いと考え実践している。

#### ● 方法

- 各学級の週案を配布し、各自の話のポイントを明確にした映像資料をもとに協議。
- 画像をもとにした週案打ち合わせを日常的に継続して実践できるように、撮った画像を編集せずにスクリーン上に映し出すなど、準備の軽減化を図るようにしている。

#### ● ビデオや画像を使った保育カンファレンスの有効性

ビデオや画像をもとにした保育カンファレンスは、「科学する心」を育てるための保育者の読み取りを可能にし、遊びの見方や保育の課題について共通理解を進めることに繋がった。実際に、以下のような点で効果があった。

- 保育者の話がより具体化される。
- 子ども姿を参加者がイメージしやすくなる。
- 他の保育者と事例を共有しやすくなる。



- 保育者は、子どもへの関わり方が分かるように整理していこうとし、意識して実践を捉えることができるようになる。
- 保育者の願いが明確になり共有しやすくなるため子ども理解が深まる。

## ✦ 事例：カンファレンスを通して保育者に必要な力を考察する

カンファレンスを進める中で、子どもたちに「科学する心」を育てるためには、保育者自身も必要な力を付けていかなければならないことに改めて気付かされた。保育者は、子どもの姿を読み取り、その行動を理解したり、次に必要な環境を考えたり、言葉をかけたりしていかなければならない。そこで、学年毎のエピソード（ここでは、5歳児を取り上げる）から、子どもの姿を読み取り、子どもに育った力とその育ちのために必要な、保育者の力について、3つの視点（「幼児の姿を読み取る力」「環境を構成する力」「適切に援助する力」）から考え合いまとめた。

### ● 子どもに育った力：事例「容器に水を入れる遊び（5歳時）」

子どもに育った力	子どもの姿
<p>自分で容器を選び考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ペットボトルに水を入れる遊びが始まる。自分で好きな大きさの物を選び水の入れ方を考えている。</li> <li>• Aちゃんはペットボトル“小”に水を入れ、“大”に移すことを繰り返す。（時間がかかる） Bちゃんはバケツで勢いよくペットボトルに水を入れようとする。（容器が倒れる）</li> </ul> 
<p>いろいろな方法を工夫する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cちゃんはジョウゴ型ペットボトルをペットボトル“大”の上に置き、より短時間で水を入れる方法を工夫する。</li> </ul>
<p>次はどうなるだろうと探求する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• そして、「ペットボトルとジョウゴ型を合わせてみるとどうなるだろう？ 友達にペットボトルを支えてもらって、バケツの水も一緒に入れたらどうかなあ？」と言い試す。</li> <li>• 入った水を出す方法にも工夫が見られる。（逆さにする。くるくる回すなど）</li> </ul>
<p>繰り返し試してみる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cちゃんは、今度はマヨネーズの容器に水を入れる方法を考え始め、繰り返し試している。ペットボトルの口とマヨネーズ容器の口がぴったりとくっ付き、上から水が落ちてこない不思議さに気付く。</li> </ul> 
<p>友達に伝えたり共有したりする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 下の容器の空気を押し出すと水が落ちてきた。容器を押すと空気が出たことをDちゃんも確かめていた。</li> </ul>

## ● 保育者に必要な3つの力

### 子どもの姿を読み取る力

5歳児は物を操作したり、物の形を変えたりしながら、物の性質に触れ、新たな発見をすることがよくある。子どもがどのような事象に興味・関心を示すのか、その発達段階を知るとともに、これまで経験していない遊びは何か、また次にどんな遊びをしたいと考えているのかを読み取る必要がある。

### 環境を構成する力

子どもが自分の力で扱うことができ、何度も繰り返し試することができる環境を準備することが必要である。例えば水とペットボトルを提示するのであれば、水を操作しやすいタライを準備したり、土が混じり合わない場を作ったりなど、子どもたちに育ってほしい力を意識して環境を構成しなければならない。使い方や遊び方を保育者から提示するだけでなく、友達と相談しながら使ったり、足りない道具を補ったりなど、子どもが主体となって工夫できる余地を残しながら準備していくことが必要となってくる。

### 適切に援助する力

保育者が前に出るのではなく、後方で見守ること、友達同士で関わるができるように配慮すること、子どもが困っている時に手を差し伸べ、適切な時期に「諦めずにやってみよう」と励ましたりすることなど、5歳児には、子どもと保育者の間に、信頼関係に基付いた距離感が必要である。